



てあーたいへん!

子どものびょうきシリーズ 1

# 熱が下がらない、目が赤い... それは川崎病かも???

『まもなく1歳になるAちゃんは、ある日急に熱を出しました。かかりつけの小児科で処方を受けましたが熱は下がりません。翌日にもう一度受診すると血液検査を受ける事になり、その結果白血球が増えてCRPという炎症反応の値が高いということで、抗生物質の内服が開始されました。それでも熱は続き、3日目頃から目が赤くなり、両脚に赤い発疹が出始めました。もう一度かかりつけ医に行くと、以前に受けたBCGのところが赤くなっている事に気付かれ、初めて「川崎病かも」という言葉を耳にしました。』以上が典型的な川崎病の発症経過です。

「川崎病って、名前は聞いた事あるんだけど…」という方はいらっしゃるかもしれません。では、どんな病気でしょうか？この病気の原因はまだわかっていません。Aちゃんのような症状が次々と現れてくる事で診断がつきます。その主な症状とは、5日以上続く発熱、目の充血、くちびるや舌の発赤、首の腫れ、皮膚発疹、手先や足先のむくみや発赤です。BCG部位が赤くなっていればより可能性が高くなります。

どういうわけか日本人に多くみられる病気で、日本全体で年間に約1万人の子どもが発症します。男女とも罹り、その内でも多くの子どもが4歳以下ですが小

学生でもこの病気で入院することがあります。

この病気は治るのでしょうか？ほとんどの子どもは無事に治ります。しかしまれですが重い後遺症がみられる子どももいます。その後遺症とは、心臓の筋肉に栄

養を与える血管(冠動脈)の一部が風船のようにふくらんでしまうものです(冠動脈瘤と言います)。これができるとその中に血のかたまり(血栓)ができやすくなり、さらにその血栓が大きくなり血流を止めてしまうと心筋細胞が死んでしまいます(心筋梗塞)。以前はこの心筋梗塞で突然死を起こす子供がいましたが、いまは血栓を作らないように薬を使ったり、手術をしたりして突然死を予防します。最も大切な事はこの風船を作らないようにする事で、これには有効な薬があり、適切な時期に使用すれば後遺症の発生を減らす事ができます。しかし、まだすべての子どもが後遺症無く治るとは言えず、なかなか熱が下がらなかつたり、大きな風船ができてしまう子もいます。現在、日本各地で後遺症を防ぐ方法についていろいろな研究がされているところです。

上に挙げた主要症状が思い当たれば、是非かかりつけ小児科で診察を受けてください。

(小児科 一見 良司)



## 三重病院外来糖尿病教室

2月開催のお知らせ

「合併症が進んで  
介護が必要となった  
時のために…」



★介護保険の話★  
★介護についての実習★

日時 ●平成23年2月23日(水)  
14:00~15:00

場所 ●三重病院 研修棟 第一研修室  
(外来棟玄関にむかって左側の建物です 詳しくは職員にお尋ねください)

担当 ●三重病院 医療社会専門員(ケースワーカー)  
& 2病棟看護師

★関心のある方はどなたでも参加できます。  
当日直接会場にお越しください。参加費は無料です。

★お問い合わせは 059-232-2513 内科外来まで